

氏名	望月浩江	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	小児看護学				
学位	修士				
学歴	2011年埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科看護学専修修了				
経歴	2011年より現職				
所属学会(役職)	日本小児看護学会、日本看護科学学会、小児保健協会				

【2018年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	該当なし				
2					
3					
(2) 論文					
1	長期入院中の子どものセルフケア・親のケア能力の獲得プロセスとそれに対する看護師の関わり	共著	保健医療福祉科学、8、10-16	○櫻井育穂、望月浩江、長谷美智子、添田啓子	2019.3
2					
3					
(3) 学会発表					
1	オレムセルフケア不足理論を取り入れた看護過程の検討～記録監査表を用いた看護過程研修前後の看護師の認識の変化～	共著	日本小児看護学会第28回学術集会、名古屋	○長場美紀、田村佳士枝、添田啓子、櫻井育穂、望月浩江、他6名	2018.7
2					
3					
(4) その他					
1	該当なし				
2					
3					
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	子どものセルフケア能力・親のケア能力獲得を支援する看護師の教育指導力の発展、添田啓子(代表)、研究分担者			2016年度～2018年度
2	研究開発センタープロジェクトF	小学生と大学生の異年齢交流が子供の社会性に与える影響—子供教室における実践的検討—			2018年度～2020年度
3	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A)	オレムのセルフケア理論を基盤とした「こどもセルフケア看護理論」の構築、片田範子(代表)、連携研究者			2014年度～2019年度
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	小児看護学Ⅱ	H31.1	1型糖尿病をもつ子どもと家族の看護を担当した。慢性疾患をもつ子どもと家族の成長発達に合わせた長期的な看護援助を理解できるよう動画やパンフレット等も用いながら講義を行った。		
2	子どもの保健	H30.4～6	病気を持つ子どもと家族への支援を担当した。動画を用いて学生がイメージしやすいように講義を行った。また、演習6コマを担当した。現場で実践する内容を中心にわかりやすく実施するためのポイントをグループワーク形式も交えながら行った。		
3	子どもと家族のヘルスプロモーション	H30.4～5	1施設を担当し、学生が病院看護師、MSW、地域保健師へのインタビューができるように調整、支援、発表ができるよう支援した。		
(2) 演習					

1	小児看護学Ⅲ	H31.1～2月	3グループ(学生23名)を担当し、グループ討議、学習を通し、学生が気管支喘息発作を発症した子どもと家族の看護の必要性・方向性をグループ討議の中から見出せるように支援を行った。	
2	小児看護学Ⅳ	H31.4～8月	「VSの測定・計測・清潔ケア」において演習の主担当を行った。演習物品の準備、整備、演習室の設営を行った。学生が事例の子どもと家族への小児看護技術を主体的に習得できるように支援した。	
3				
(3) 実習				
1	小児看護学実習		(学生22名 2単位90時間×5クール)を担当し、子どもの安全を守り、学生が小児看護学の目的目標に沿った看護を展開できるよう、臨床指導者と連携を図りながら指導を行った。個々の学生のレディネスに合わせた実習指導を臨床指導者と連携を図りながら行った。	
2	総合実習		学生4名を担当し、実習前の事前ゼミにおいて、学生個々が探求したい課題を明確にし、総合実習計画書を作成できるよう指導した。実習では、子どもの安全を守り、かつ個々の学生が課題とする看護を実施し、看護の効果を確認できるように臨床指導者と連携を図りながら支援を行った。	
3	IPW実習		科目責任者として、5施設5チームを有する埼玉北地域を担当し、円滑に実習が進むように調整を行った。また評価担当として、実習後アンケートの集計・とりまとめを行った。	
(4) 論文指導				
1	卒業研究		拡大ゼミ計4回において小児看護学領域の学生に支援を行った。	
2				
3				
(5) その他				
1	個別の教育への工夫(小児看護学実習)	H30.12	小児看護学実習においてコミュニケーションに課題のある学生への支援を行い、小児看護学実習の目標を到達し効果的な学習とすることができた。	
2				
3				
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	オレム推進連絡会議 オレム全体ワークショップ	埼玉県立小児医療センター	オレム推進連絡会議×8回 オレム全体ワークショップ	通年
2	第20回日本母性看護学会学術集会実行委員	日本母性看護学会		2018年6月
3				
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称		任期
1	該当なし			
2				
3				
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
2				
3				
5. 学内運営(委員会委員)				
1	保健委員			
2	IPW実習科目責任者会			
3				
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			

7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		